

## ジャンジャン横丁

掲載した写真は 2002 年 8 月に大阪で撮影したものである。最近ようやくスキャナーを使って、こうしてレポートに取り込めるようになり、かつて撮った写真も材料にできるようになった。

この三枚は真夏の大阪を天王寺から通天閣まで歩いて、汗をかきながら撮った写真の一部である。上からジャンジャン横丁、通天閣界限、そして「あいりん労働公共職業安定所」である。

ジャンジャン横丁には思い出がある。大学を卒業して、大学院に入るために大阪に行った時のことで、今から 30 年以上も前のことになる。当時から街中を歩くのが好きだったが、下宿が天王寺から近かったこともあり、ジャンジャン横丁や通天閣界限を歩いたりした。じつに大阪的な雰囲気の中で、安いビールと串カツを食べたことが記憶に残っている。こうした雰囲気のところは今でも好きだ。

ジャンジャン横丁と通天閣界限は、今もあまり変わっていないようだ。平日の昼間でも人通りが多く、串カツや酒のにおいが漂ってくる。将棋・囲碁の店の前では、じっと「熱戦ぶり」を眺めている人たちがいる。横丁を行くと通天閣が見えてくる。これも昔と変わらず、街を上から見下ろしている。確か母が大阪に来たときに、通天閣にのぼったことがある。また「浪人」の身で厳しい生活を送っているなかで、臨時収入があった時に、ふぐ料理(値段は安かったと思う)を味わったことも思い出される。

通天閣界限から JR の環状線の新今宮駅の方へ行くと、あいりん労働公共職業安定所が見えてくる。このあたりは昔「釜ヶ崎」と呼ばれ、東京の「山谷」とともに、日本有数のドヤ街であった。「ドヤ」とは「宿」をひっくり返した言葉だそうで、今も安い値段を掲げた「ホテル」をいくつも目にした。

